九州大学附属図書館移転計画 2007

２００７年１０月

九州大学附属図書館

第２回六本松地区移転検討専門部会（2007.7.20）承認
第 196 回附属図書館商議委員会（2007.10.31）承認

2007 年の改訂にあたって

平成 15（2003）年 7 月、『九州大学附属図書館移転計画』（2003.7.10 附属図書館商議委員会承認）が策定された。これは、九州大学の移転開始に先立ち、平成 17 年度からの 10 年間にわたる附属図書館の移転計画をまとめたものである。この計画に沿って、理系図書館が開館し、平成 17-18 年の第 1 期移転が行われた。

この『九州大学附属図書館移転計画 2007』は、六本松地区の伊都直接移転を決定した平成 18 年 9 月の移転スケジュール変更に伴い、前述の『移転計画』を改訂したものである。改訂にあたっては、平成 19 年 1 月に附属図書館商議委員会で承認された「六本松地区の伊都キャンパスへの直接移転に対応した図書館サービスの基本方針について」に拠った。この『移転計画 2007』をもとに、資料配架計画、サービス運用計画を順次改訂、策定する予定である。

なお、部局の移転順序については、平成 18 年 9 月の「九州大学統合移転スケジュールの変更について」に示された各ステージ・年次別部局移転スケジュールに基づく。

はじめに（『九州大学附属図書館移転計画』2003.7 より）

元岡地区新キャンパスは、平成１７年後期に第１期開校が予定されている。この第１期開校に合わせて工学系地区に計画する理系図書館が開館する予定であり、また第Ⅱステージにおいてはイースト・ゾーンに計画する中央（文系）図書館が開館し、この２館において移転する部局の利用者に対して順次サービス体制を整えていくことになる。

この移転計画は、平成１７年から約１０年間にわたって行われる附属図書館の新キャンパスへの移転の全体的な計画をまとめたものである。今後、移転時期が確定した部局ごとにさらに詳細な移転計画を順次策定する予定である。

なお、部局の移転順序については、「平成１４年度移転シミュレーション検討プロジェクト（中間報告その２）」（平成１４年１２月）に示された年次別部局移転スケジュール 1-a 案（全学教育の移転パターンについては「エ案」）に基づく。

１　伊都地区における中央（文系）図書館及び理系図書館の蔵書の配架計画

（１）伊都地区の図書館における蔵書構成の概要

中央（文系）図書館（仮称、以下同じ）、理系図書館は、それぞれ概略次のような蔵書構成とする。

中央（文系）図書館

研究用図書	人文・社会科学系
学生用図書	文系分野を中心に構成、理系分野の基本的な図書も収書
全学教育用図書	すべての分野の全学教育用図書
参考図書	文系分野を中心に構成、理系分野の基本的な参考図書も収書
貴重図書	伊都地区に関連するすべての貴重図書

理系図書館

研究用図書	理学・数理学・工学・システム情報科学・農学系
学生用図書	理系分野を中心に構成、文系分野の基本的な図書も収書
参考図書	理系分野を中心に構成、文系分野の基本的な参考図書も収書

ただし、第Ⅱステージの六本松地区移転から第Ⅲステージの新中央(文系)図書館開館までの間においては、六本松分館の全学教育用図書及び研究用・参考図書を暫定的に理系図書館に配架し、全学教育学生及び比較社会文化研究院、言語文化研究院に対するサービスを提供する。これらの資料は、新中央(文系)図書館が整備された段階で、基本的に新中央(文系)図書館へ再移転する。

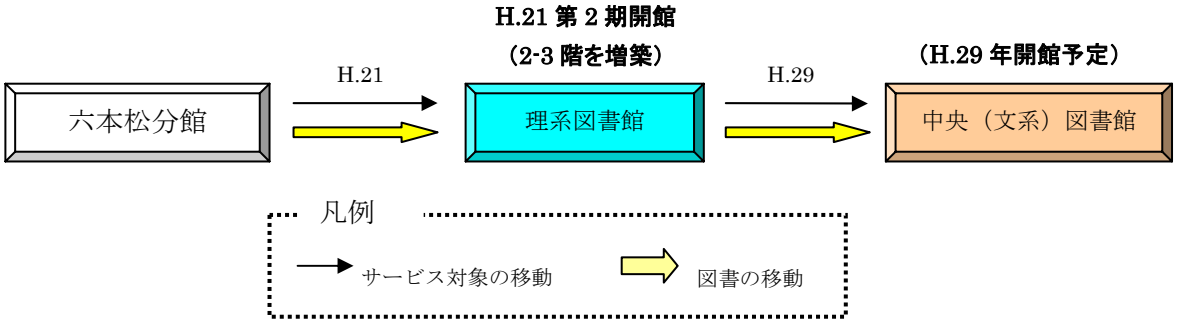


図　全教サービス・比文・言文移転の概念図

理系図書館における資料種別ごとの具体的な配架計画（資料種別ごとにどの室にどのようなレイアウトで配架するか）については、平成 17(2005)年 6 月、『理系図書館資料配架計画 2005』を策定し、第Ⅰ章において理系図書館完成時における資料配架の基本方針、第Ⅱ章において第 1 期開館時における資料配架計画及び蔵書初期構築方法を述べた。六本松地区移転に際しては、第Ⅰ章の基本方針を踏まえつつ、第 2 期開館時の配架計画を『理系図書館資料配架計画 2007』として新たに策定する。

なお、新中央(文系)図書館については、概略の平面計画ができた段階で計画する。

（２）蔵書構築の概要

中央（文系）図書館および理系図書館は、部局の移転に応じて、すみやかに必要となる蔵書の構築を行い、移転部局の利用者に対するサービスを遅滞なく開始しなければならない。また、資料移動作業等に伴いサービスできなくなる期間を最小限に抑えるべく、効率的な資料の移動作業を行う必要がある。

蔵書の初期構築方法は以下の方法による。

○方法

新図書館における蔵書は、現中央図書館、六本松分館および部局図書室から現有資料を移動することにより初期構築を行うことを基本とするが、一部の資料については、購入により初期構築を図る。蔵書の初期構築方法の概要については、表 1-1「伊都キャンパスの図書館における蔵書の構築方法」および表 1-2「同（模式図）」を参照されたい。

○移動時期

原則として、移転する部局等（サービス対象）に対応して関連する図書館資料の移動を行う。

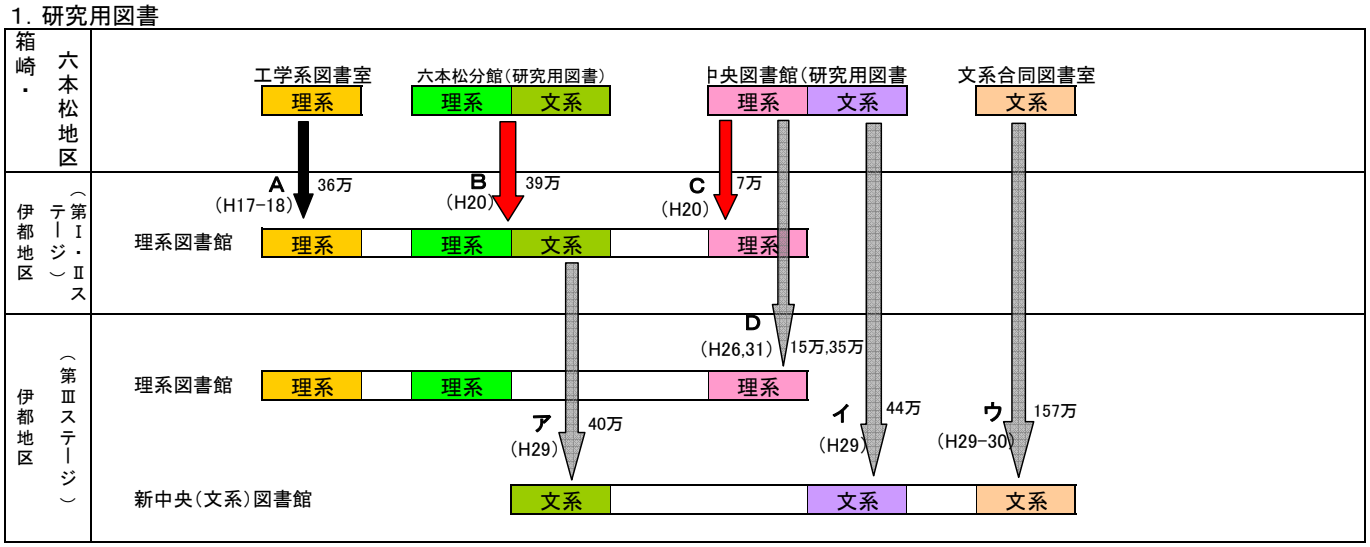
（表1-1）伊都キャンパスの図書館における蔵書の構築方法

資料種別	新中央（文系）図書館			理系図書館		
	蔵書構成		構築方法	蔵書構成		構築方法
研究用図書	人文・社会科学系	第Ⅰステージ		理学・数理学・工学・システム情報科学・農学系	第Ⅰステージ	A. 工学部図書室および工学/システム情報科学研究院の部門図書室が所蔵する研究用図書を移動する。（H17～H18年：完了）
		第Ⅱステージ			第Ⅱステージ	B. 六本松分館が所蔵する研究用図書を移動する。（H20年） C. 現中央図書館が所蔵する研究用図書の内、数理学関連の資料を移動する。（H20年）
		第Ⅲステージ	ア. 理系図書館の研究用図書の内、六本松地区からの移設図書の人文・社会科学関連の資料を移動する。（H29年） イ. 現中央図書館が所蔵する研究用図書の内、人文・社会科学関連の資料を移動する。（H29年） ウ. 文系合同図書室等が所蔵する研究用図書を移動する。（H29～H30年）		第Ⅲステージ	D. 現中央図書館が所蔵する研究用図書の内、理学・農学関連の資料を移動する。（H26年〈理学系〉, H31年〈農学系〉）
学生用図書（全教図書を含む）	文系分野を中心に構成、理系分野の基本的な図書も収集（すべての分野の全教図書を収集する）	第Ⅰステージ		理系分野を中心に構成、文系分野の基本的な図書も収集	第Ⅰステージ	E. 現中央図書館開架閲覧室に配架されている学生用図書の内、工学分野の資料を移動する。（H17年～H18年：完了） ＊文系分野の基本的な図書は購入による。（H17年：完了）
		第Ⅱステージ			第Ⅱステージ	F. 六本松分館3階開架閲覧室に配架されている全教図書を移動することで全学教育に対応する。（H20年）
		第Ⅲステージ	エ. 全教図書は、理系図書館に配架されている全教図書を移動し、全学教育に対応する。（H29年） オ. 現中央図書館開架閲覧室に配架されている学生用図書の内、文系分野の資料を移動する。（H29年） ＊理系分野の基本的な図書は購入による。		第Ⅲステージ	G. 現中央図書館開架閲覧室に配架されている学生用図書の内、理系分野の資料を移動する。（H26年〈理学系〉, H31年〈農学系〉）
参考図書	文系分野を中心に構成、理系分野の基本的な参考図書も収集	第Ⅰステージ		理系分野を中心に構成、文系分野の基本的な参考図書も収集	第Ⅰステージ	H. 工学部図書室等の参考図書の内、関連する資料を移動する。（H17年～H18年：完了） ＊文系分野の基本的な参考図書は、基本セットを購入する。（H17年：完了）
		第Ⅱステージ			第Ⅱステージ	I. 六本松分館に所蔵されている参考図書を移動する。（H20年）
		第Ⅲステージ	カ. 理系図書館に所蔵されている参考図書の内、六本松分館から移設した文系分野の参考図書を移動する。（H29年） キ. 現中央図書館参考図書室に配架されている参考図書の内、文系分野の資料を移動する。（H29年） ク. 文系合同図書室等の参考図書の内、関連する資料を移動する。（H29～H30年） ＊理系分野の基本的な参考図書は購入による。		第Ⅲステージ	J. 現中央図書館参考図書室に配架されている参考図書の内、理学・農学関連の資料を移動する。（H26年〈理学系〉, H31年〈農学系〉）

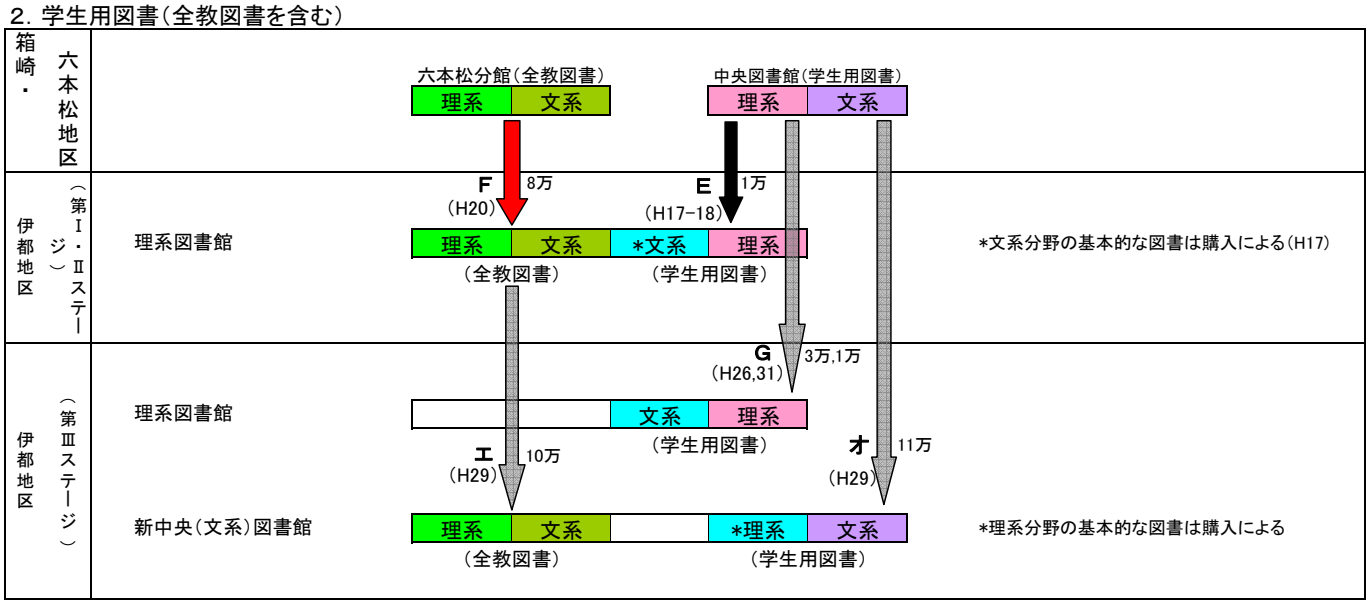
（表1-2）伊都キャンパスの図書館における蔵書の構築方法【模式図】

2007.8　修正

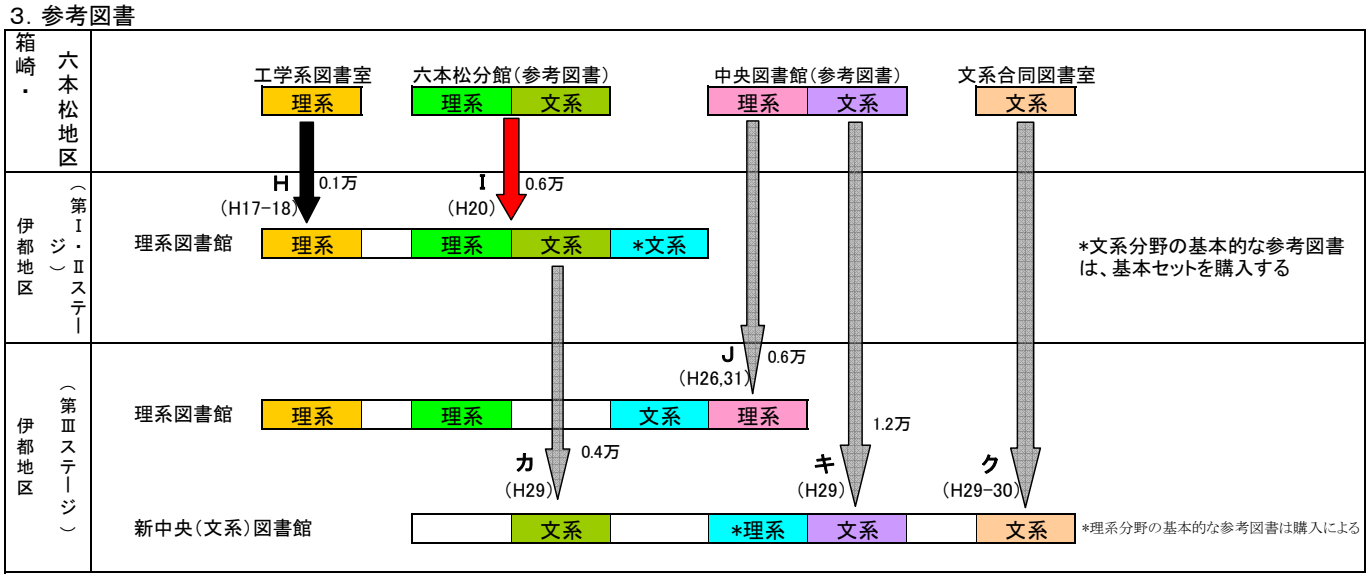
1. 研究用図書



2. 学生用図書（全教図書を含む）



3. 参考図書



移転第Ⅰステージでの移動

移転第Ⅱステージでの移動

移転第Ⅲステージでの移動

２　部局の移転にあわせた図書移動スケジュール

（１）資料移動の全体スケジュール

前述のように、移転する部局等（サービス対象）に対応して関連する図書館資料を移動する。資料移動の全体的なスケジュールを表２「移転年次別図書館資料移動スケジュール」に掲げる。

（２）移転部局別の資料移動詳細スケジュール

移転部局別の資料移動スケジュールの詳細（冊数、移転期間、方法等）については、移転時期が確定した部局から順次検討に着手し、別途「部局別移転詳細計画」としてまとめる。

表2 移転年次別資料移動スケジュール・移動冊数

			第Iステージ			第IIステージ				
			H17(2005)	H18(2006)	H19(2007)	H20(2008)	H21(2009)	H22(2010)	H23(2011)	H24(2012)
六本松地区	移転対象部局・部門等					言語文化				
						比較社会文化				
						数理学				
	資料の移動	研究用図書・学術雑誌				言文・比文・数理(六分->理図) 394,087				
		全教図書				六本松分館→理図 83,140				
		合計				477,227				
	運用体制(事務組織)		《H20年度末でサービス機能を理系図書館と中央図書館へ移行》							
箱崎地区	移転対象部局・部門等		工・第1期移転部門(T1)	工・第2期移転部門(T2)		数理学				
	資料の移動	研究用図書・学術雑誌	T1 181,925	T2 181,925		数理学系　関連(現中図->理図) 76,693				
		学生用図書	[購入等] 3,737	[購入等] 10,272						
		合計	185,662	192,197		76,693				
	運用体制(事務組織)		《工・図書室、H18年度まで機能を縮小しながら存続》 -->★							
伊都地区 理系図書館	サービス対象		工学系・第1期移転部門群	工学系・第2期移転部門群	工学	工学	工学	工学	工学	工学
					システム情報科学	システム情報科学	システム情報科学	システム情報科学	システム情報科学	システム情報科学
							数理学	数理学	数理学	数理学
							比較社会文化	比較社会文化	比較社会文化	比較社会文化
							言語文化	言語文化	言語文化	言語文化
							全学教育	全学教育	全学教育	全学教育
	所蔵資料数	研究用図書・学術雑誌	181,925	363,850	365,550	367,250	848,501	858,972	869,443	879,914
		学生用図書	3,737	14,009	24,281	34,553	44,825	55,097	65,369	75,641
		全教図書					85,778	88,416	91,054	93,692
		合計	185,662	377,859	389,831	401,803	979,104	1,002,485	1,025,866	1,049,247
	運用体制(事務組織)		《工・図書室の機能の一部を移行し、H21年度より比文、言文、数理学系と全学教育へのサービス機能を吸収し規模を拡大》						-->	-->
中央(文系)図書館	サービス対象									
	所蔵資料数	研究用図書・学術雑誌								
		学生用図書								
		全教図書								
		合計								
	運用体制(事務組織)									

△理系図書館開館　　▲六本松地区空地化

〔注〕資料の移動数量は2006年(H18)の九州大学附属図書館年報の蔵書数(研究室貸出資料を含む)、および年間図書受入数に基づいたものであり、以後各部局における移転時までの増加見込みを加算した数値である

表2 移転年次別資料移動スケジュール・移動冊数

			第Ⅲステージ						
			H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	H31(2019)
六本松地区	移転対象部局・部門等								
	資料の移動	研究用図書・学術雑誌							
		全教図書							
		合計							
	運用体制(事務組織)								
箱崎地区	移転対象部局・部門等			理学	情報基盤研究開発センター		中央図書館	文系2	農学系
							文系1		
	資料の移動	研究用図書・学術雑誌		理学（現中図->理図） 146,367	情報基盤研究開発センター 15,893		文系第1期移転（部局→新中図） 788,037	文系第2期（部局→新中図） 788,037	農学（現中図→理図） 345,605
							文系1（現中図→新中図） 435,220		
		学生用図書		理学（現中図->理図） 29,259			文系1（現中図→新中図） 53,971	文系2（現中図→新中図） 53,970	農学（現中図→理図） 7,864
		合計		175,626	15,893		1,277,228	842,007	353,469
	運用体制(事務組織)			《理学系等へのサービス機能を理系図書館へ移行》 -->★			《事務機能を伊都キャンパスの図書館へ移行し、規模縮小しながらH31年度まで存続》		
伊都地区 理系図書館	サービス対象		工学 システム情報科学 数理学 比較社会文化 言語文化 全学教育	工学 システム情報科学 理学 数理学 比較社会文化 言語文化 全学教育	工学 システム情報科学 理学 数理学 比較社会文化 言語文化 全学教育 情報基盤研究開発センター	工学 システム情報科学 理学 数理学 比較社会文化 言語文化 全学教育 情報基盤研究開発センター	工学 システム情報科学 理学 数理学 情報基盤研究開発センター	工学 システム情報科学 理学 数理学 情報基盤研究開発センター	工学 システム情報科学 理学 数理学 農学 情報基盤研究開発センター
	所蔵資料数	研究用図書・学術雑誌	890,385	1,049,500	1,078,687	1,091,981	691,468	697,762	1,054,067
		学生用図書	85,913	125,444	135,716	145,988	156,260	166,532	184,668
		全教図書	96,330	98,968	101,606	104,244	0	0	0
		合計	1,072,628	1,273,912	1,316,009	1,342,213	847,728	864,294	1,238,735
	運用体制(事務組織)		--> ★	《理学系等へのサービス機能を中央図書館より吸収し規模を拡大》 --> ★			《比文、言文、全学教育へのサービス機能を新中央図書館へ移行しつつ、H31年に農学部へのサービス機能を吸収》		
中央（文系）図書館	サービス対象						比較社会 比較社会文化 全学教育 文系1	比較社会 比較社会文化 全学教育 文系	文系 比較社会文化 言語文化 全学教育
	所蔵資料数	研究用図書・学術雑誌					1,630,064	2,425,554	2,451,270
		学生用図書					53,971	107,941	112,111
		全教図書					106,882	109,520	112,158
		合計					1,790,917	2,643,015	2,675,539
	運用体制(事務組織)						《中央図書館、文系へのサービス機能を理系図書館、中央図書館より吸収し規模を拡大》		

※H29年の新中央（文系）図書館の蔵書数には、理系図書館からの移動冊数も含む

３　移転段階に対応した運用体制

（１）　移転段階に対応した運用体制の概要

サービス運用体制については、部局及び資料の移転に伴い、順次対応するサービス・業務体制を移行する。ただし、資料購入・整理等の管理系業務については、効率的運用を図るため、中央図書館で集約して行うこととする。

参考までに、移転年次別のサービス対象者数及び業務量の概要を、表３「移転年次別業務関係積算概数」に掲げる。

（２）移転段階に対応した運用体制の詳細

理系図書館における具体的なサービス・運用については、平成 17(2005)年 6 月、『理系図書館サービス・業務運用計画 2005』を策定したが、第Ⅱステージの六本松地区移転、第Ⅲステージの理学系・農学系移転にあわせ、随時改訂を行うこととする。

新中央(文系)図書館については、整備計画が本格化した段階で計画する。

表3 年次別業務関係積算概数

				第Ⅰステージ			第Ⅱステージ				第Ⅲステージ							
				H17年(2005)	H18年(2006)	H19年(2007)	H20年(2008)	H21年(2009)	H22年(2010)	H23年(2011)	H24年(2012)	H25年(2013)	H26年(2014)	H27年(2015)	H28年(2016)	H29年(2017)	H30年(2018)	H31年(2019)
移転対象部局等				工・第1期移転部門	工・第2期移転部門		比較社会文化						理学	情報基盤研究開発センター		中央図書館	文系2	農学
							言語文化									文系1		
							数理学											
六本松地区	六本松分館	年間図書受入冊数		9,535	9,638	9,638	9,638	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		年間雑誌受入種類数		1,439	1,411	1,411	1,411	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		蔵書冊数		455,862	457,951	467,589	477,227	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		利用対象者	学生	3,811	3,811	3,811	3,811	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			院生	300	300	300	300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			教職員	140	140	140	140	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			合計	4,251	4,251	4,251	4,251	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
箱崎地区	現中央図書館（記録資料館、文系合同図書室等を含む）	年間図書受入冊数		35,555	33,959	33,959	33,959	32,188	32,188	32,188	32,188	32,188	29,911	29,365	29,365	14,217	4,406	0
		年間雑誌受入種類数		14,292	14,787	14,787	14,787	14,264	14,264	14,264	14,264	14,264	13,311	13,254	13,254	6,574	3,091	0
		蔵書冊数		2,295,168	2,368,221	2,402,180	2,436,139	2,423,822	2,456,010	2,488,198	2,520,386	2,552,574	2,406,859	2,388,811	2,418,176	1,154,712	371,081	0
		利用対象者	学生	2,890	2,890	2,890	2,890	2,890	2,890	2,890	2,890	2,890	2,197	2,197	2,197	1,384	572	0
			院生	3,447	3,447	3,447	3,447	3,169	3,169	3,169	3,169	3,169	2,519	2,519	2,519	1,707	896	0
			教職員	1,324	1,324	1,324	1,324	1,253	1,253	1,253	1,253	1,253	1,017	975	975	450	285	0
			合計	7,661	7,661	7,661	7,661	7,312	7,312	7,312	7,312	7,312	5,733	5,691	5,691	3,541	1,753	0
伊都地区	理系図書館	年間図書受入冊数		6,849	11,972	11,972	11,972	23,381	23,381	23,381	23,381	23,381	25,658	26,204	26,204	16,566	16,566	20,972
		年間雑誌受入種類数		896	826	826	826	2,760	2,760	2,760	2,760	2,760	3,713	3,770	3,770	2,359	2,359	5,450
		蔵書冊数		406,564	377,859	389,831	401,803	979,104	1,002,485	1,025,866	1,049,247	1,072,628	1,273,912	1,316,009	1,342,213	84,778	864,294	1,238,735
		利用対象者	学生	2,010	2,010	2,010	2,010	5,821	5,821	5,821	5,821	5,821	6,513	6,513	6,513	2,702	2,702	3,275
			院生	1,645	1,645	1,645	1,645	2,223	2,223	2,223	2,223	2,223	2,873	2,873	2,873	2,573	2,573	3,469
			教職員	599	599	599	599	810	810	810	810	810	1,046	1,088	1,088	1,088	1,088	1,373
			合計	4,254	4,254	4,254	4,254	8,854	8,854	8,854	8,854	8,854	10,432	10,474	10,474	6,363	6,363	8,117
	新中央（文系）図書館	年間図書受入冊数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24,786	34,144	34,144
		年間雑誌受入種類数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,646	11,129	11,129
		蔵書冊数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,790,917	2,643,015	2,675,539
		利用対象者	学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,623	5,435	5,435
			院生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,112	1,923	1,923
			教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	665	830	830
			合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,400	8,188	8,188

△理系図書館開館（10月）　　▲六本松地区空地化

※平成17年、18年の図書受入冊数、雑誌受入種類数については、それぞれ九州大学附属図書館年報2005,2006のデータに基づき、平成19年以降については平成18年のデータを見込みとして採用した。

※蔵書冊数は、各地区の教員研究室に貸出中の資料も含む。

※利用対象者数については、「平成18年度九州大学概要」（平成18年5月1日現在）の数値を採用した。

4　資料移転にあたっての課題

（１）移転期間中の資料の所在管理方法について

資料の物理的な移動に伴い、資料がもつ所在情報（配架情報）を正確かつ効率的にメンテナンスする必要がある。本学附属図書館が構築・運営する蔵書目録データベース(OPAC)中の図書所蔵データ及び雑誌所蔵データ、並びに国立情報学研究所（NII）が構築・運営する総合目録データベース（NACSIS-CAT）中の所蔵レコードの所在情報（参加組織レコードID、配置コード）のメンテナンスマニュアルを別途作成する。

（２）図書の分類統一について

新図書館においては、複数部局の資料が集中的に配架されることになるが、利用者の利便性を図るため、できる限り同じ種別の資料は一元的に配架する。図書を書架に一元的に配架するためには、分類法が統一されていなければならない。図書の分類統一については、「図書資料分類法の統一に関する検討会議報告」（平成１１年３月）がでており、これに沿って、関連部局と連携しつつ、計画的に、分類法の切り替え、遡及的な統一分類の付与を検討していく必要がある。

（３）図書館資料が統合される部局間等における資料の重複調整について

移転時における無駄な資料移動の負荷を軽減するため、重複調整基準を策定し、部局内及び図書館資料が統合される部局間において資料の重複調整を進める。

重複調整作業の具体的な作業方法・手順は、別途作業マニュアルを作成する。

（４）遡及入力について

所在情報の管理を効率的に行うためには、資料の所蔵データが登録されていることが前提となる。平成13年度から5ヵ年計画で全学的な遡及入力を行い、図書については登録がほぼ完了したところであるが、今後、移転までには、できる限り以下の資料についても登録を進める必要がある。

①研究室貸出中の資料

研究室貸出中の資料の遡及入力については、適切な方法で遡及入力を進める。

②逐次刊行物及び製本雑誌

逐次刊行物及び製本雑誌については、貸出や自動書庫へ対応するため、1点ごとの所在管理が確実に行えるよう、可能な限り遡及入力を進める。

（５）研究室貸出中の資料について

移転前後においても継続して使用するケース、物理的に返却図書の引取りが困難なケースにおいては、研究室からそのまま研究室へ移動し、それ以外のケースにおいては、移転前の早い段階より返却を進めてもらう。

（６）雑誌の製本について

雑誌については、貸出や自動書庫へ対応するため、1点ごとの所在管理が確実に行えるよう、関係部局との連携により、長期保存する雑誌については可能な限り製本を進める。

（７）移転期間中において共通的に利用する資料について

移転期間中に、地区間〈箱崎地区―伊都地区〉において共通して使用する資料（学術雑誌、

二次資料等）は、できるだけ双方の地区においてその利用が可能なように計画する。

〇共通利用の方法

共通利用の方法としては、次のような方法が考えられる。

◇重複購入

◇電子ジャーナル・二次情報データベースなどネットワークを介して利用できる手段への切り換え

◇いずれか一方の地区に置き文献複写、現物資料の配送で対応